

トビタテ選考体験記（17期・ダイバーシティコース）

学部・研究科：国際協力研究科

学年：修士1年（応募時）

トビタテを知ったきっかけ&応募しようと思ったきっかけ

・大学構内のトビタテのポスターを見たことがきっかけで認知し、留学前と後のサポートも手厚いため。

トビタテ応募にあたっての書面審査対策

- ・Web上に、トビタテに採用された人々が書いた記事が多数あったため、ポスター作製時のレイアウト等を参考にした。
- ・私は研究を目的とした留学であったため、留学計画等を友達に目を通してもらい、専門知識がなくても理解しやすいような文章構造になるように特に注意した。
- ・トビタテは、研究などの座学学習だけでは不十分で、インターンシップやボランティアといった実践活動を留学計画に盛り込む必要がある。トビタテは官民連携事業であり、企業の人事担当が留学計画を審査すると聞いたため、留学計画自体の実現可能性や実践活動の実行可能性、実践活動の座学活動との一貫性が担保されているかを意識した。
- ・受け入れ機関での主な活動を書く必要があるため、活動内容や日程などできるだけ細かく具体的に描くようにした。
- ・期待できる留学成果の活用について書くところでは、日本の企業が投資してくれることを念頭に置き、グローバル規模での活用に加えて日本社会への活用も盛り込むようにした。

トビタテ面接に当たっての面接審査対策

- ・私は質問に対してアドリブで返すことが苦手なタイプであると自覚していたため、書類審査の時点では書ききれなかった点（今回の留学テーマを設定するに至ったきっかけ、研究について、なぜその国（受け入れ機関）なのか？等）を中心に、想定される質問に対する回答を一通り考えておくようにした。そして、丸暗記するのではなくキーワードとして、あくまでも自分の言葉で説明できるよう練習した。
- ・面接対策では国際交流課の先生方によるグループ面接対策に参加させてもらうとともに、キャリアセンターの個人相談を利用して個人面接の対策もさせていただいた。
- ・当日では、講堂のような大空間で、集まった学生らが同時に個人面接を行った。一応隣が見えないような仕切りがあるものの非常に簡易的で、周りの声が筒抜け状態であったため、声が小さいと面接官に聞き取りづらいと思われる可能性がある。
- ・個人面接では面接官は一人、または二人であると思われる。私の場合は、個人面接は企業の人事担当の方と過去のトビタテ生による二人がかりだった。
- ・私の場合は面接官二人は非常に柔和的で、面接の時点で留学計画のアドバイスなどもいただいた。ただし、面接官は文科省ではなく企業の人事担当であるため、中には圧迫面接のようなケースもあると聞いた。
- ・グループ面接は、個人面接修了後に食堂に移動し、そこで各グループごとに集まって行われた。グループ面接では面接官は進行を行うくらいで、主に質問をするようなことはあまりなかった。
- ・グループ面接ではまず各自が留学計画を発表し、その隣の人が順番に質問する流れで行われた。

- ・グループ面接では、同じような留学テーマ同士で固められるようなことはなかったので、それに対して質問やアドバイスを的確に出せるよう、他の人の留学計画発表時に適宜メモを取ることを意識した。
- ・個人およびグループ面接でも、自分が答えやすいような質問を投げかけてもらうよう、わざと研究内容や実践活動内容などを細かく説明しすぎないようにした。
- ・グループ面接では、他の人の留学計画に対して質問するとき批判的な内容にならないよう意識した。

面接の質問・議論内容（覚えている範囲ですが）

- ・留学テーマに至ったきっかけ
- ・（私が学部時代から専攻を変えて神戸大学に院進したことや留学に行くことを受けて）非常に意欲的だという印象だが、そのようになったきっかけは何か考えられるか？
- ・困難を乗り越えた経験は？

回答：大学四年生との時の卒業論文の執筆は大きな試練だった。指導教員から厳し

い指導をいただき、研究の方向性をなかなか定めることができなかつた。その他、何度も研究に向いていないのではないかと悩み、執筆をあきらめようかと友人に相談したこともあった。しかし、この困難を乗り越えるために、自ら学びに行く姿勢を徹底した。また、自分に自信をつけるために、周囲との対話を重ねながら毎日朝早くから夜遅くまで研究に没頭した。この経験から、自ら学ぶ姿勢を持ち自分に対する自信を持つことが、困難な状況の克服には重要だと学んだ。現在もこの経験を生かしながら、より深い知見を得るために研究に日々取り組んでいる。

回答：トビタテに採用されなくても、留学は実現させるつもり。サセックス大学で

のプログラムは私の目標にとって必要不可欠であるため。しかし、トビタテは単なる資金の支援ではなく、実践活動の促進やコミュニティを通じた多様な人との協働する機会を提供してくれるなど、他にはない学びがある。そのため、私はトビタテでの留学を強く希望している。

- ・（少し時間が余ったため）ほかに何か言いたいこと・アピールしたいことはあるか？

回答：自己PRをした

私は常に新しい知識の習得と深い理解を追求する姿勢を持ち続けている。学部時代に途上国の金融包摂に強い関心を抱き、その探求心を高めるために神戸大学大学院に進学して金融包摂について日々研究している。しかし、より深い専門性と実践的な経験を身に付けるためにはさらに高度で体系的な学びが必要だと感じ、サセックス大学への留学を決意した。

このように、私は物事に対して「なぜ」「どう解決するか」を問い続け、それを突き詰めることに情熱を注いできた。未知の分野や新たな課題にも果敢に挑戦し、粘り強く答えを見出していく姿勢こそが、私の研究への意欲と知的探求心の原動力であり、最大の強みである。留学中もこの姿勢を活かして高度な知識の習得と課題解決力を養うことで、開発金融のスペシャリストとして金融包摂の推進に貢献していく。

その他

- ・トビタテは他の奨学金とは異なり、官民連携事業であることを忘れないようにした方がいいと

思う。企業が我々に投資してくれるということであるため、大きな理想を語るだけではなく、その留学がいかにも実現可能でそれによって日本をはじめとした実社会にどのように貢献できるのかをしっかりと示す必要があると思う。

- ・二次審査に臨むにあたっては、書類審査を通過しているために自分の留学計画には自信をもって「自分はこれがやりたいんです！」という熱意をうまく伝えられるかがカギになると思う。

- ・基本的には個人面接とグループ面接の面接官は非常に優しいため、面接という感じではなく座談会での対話というイメージで臨めばいいと感じる。